

TOPICS

センター周辺の自然情報をご案内します！

なんと1万人による手作り

荒幡富士

いきものふれあいの里センターから歩いて1分。センターのすぐ近くに、今回ご紹介する荒幡富士があります。地元では「どろっぶじ」と呼ばれて親しまれています。

どろっぶじはこうしてできた

一見、自然の山にみえますが、実は『人の手によって造られた山』なのです。

その歴史は古く、今から約120年ほど前、荒幡の100戸ほどの集落の住民が、標高約100mの丘の上に19mも協力して積み上げ、15年かけて造った土盛り富士山です。今と違って機械などな

い時代です。すべて手作業で、「もっこ」や「ざる」などで持ち上げ、積み上げたそう、最後は「ざる」などの道具を下まで放り投げて、作業の効率化を図っていたようです。荒幡富士のふもとには浅間神社があり、周辺の神社から集められた石碑が、山の斜面に安置されています。

荒幡富士は本物の富士山と同じように1合目、2合目、3合目と道標が置かれ、頂上にたどり着けます。道標の中には、江戸時代に作られた物も現存しており、探しながら登ると楽しみが増えますよ。歴史に興味がおありの方はぜひごらんになってください。

！ まめちしき

そんな素晴らしい場所ですが、日頃の管理はなかなか大変です。毎年2回、荒幡地域の方々が総出で草刈りを行なっています。これは「荒幡富士保存会」という地元団体の呼びかけによって行われるもので、荒幡富士が地域の方に親しまれていることが見て取れます。また、保存会の皆さまにはセンター周辺を週1回巡視もしていただき、とても感謝しております。

見どころ・楽しみどころ

また富士のふもとには広場があり、散歩やハイキングを楽しめる方の休憩場所ともなっています。

ここは、センターエリアにおける唯一の草原的環境。森林とは違った種類のいきものが観察できます。子供たちにとっては最高の遊び場でもあります。

ここは360度の展望で、狭山丘陵がすべて見渡せるのも魅力の一つ。そして、

見所はなんといっても、頂上から見る「富士山・3776m」の姿でしょう。特に空気の澄んだ午前中には、富士山の裾野までくっきりと見ることができます。

周辺に植栽されているミツバツツジやソメイヨシノの花も見事で、花のシーズンになると、木の下でマットを広げお弁当を食べている家族の姿なども見ることができます。地元の方々にとってかけがえのない憩いの場になっています。

荒幡富士と浅間神社

荒幡地区の誇る、荒幡富士。そのすぐ隣にある神社が浅間神社です。明治時代の初めの神仏分離と神社社格の決定で、当時の荒幡村内の神社は同村総鎮守浅間神社が村社に列せられたものの、他の三島神社、松尾神社、氷川神社、神明社は無格社になり、氏子はいくつにも分かれてしまいました。

これでは村内の民心統一が出来ないことを憂えた有志者は、浅間神社を移転して、これらの無格社を合祀し、

さらに、明治17年(1884年)には旧浅間神社境内の富士山の移築を図りました。

荒幡富士頂上からの眺めは最高で、天気の良い日には遠くまで見渡せます。おススメですよ。

所沢の指定文化財より



イラスト:牛込佐江子

いきふれ

初夏のたより

季節は初夏を迎えました。今年は桜の便りも早く、木々の芽吹きも早かったようです。アオイスミレにはじまり、ツボスミレで締めくくるといった例年とは違い、スミレもほとんどいっせいに咲き始めました。パステルカラーに染め上げられていった狭山丘陵は、あっという間に緑を濃くしています。

◆夏本番も間近？

足下にはオオジシバリやニガナの黄色い花。葉緑体を持たないギンリョウソウの白い花にも出会えることでしょう。サクラの後も木々の花が目立つ時季です。エゴノキ、ミズキ、ガマズミ、ネジキ、ノイバラ、ウツギ。

卯の花の匂う垣根に ホトトギス早も来鳴きて と『夏は来ぬ』に歌われているウツギですが、今年は4月中旬に咲いてしまったところもありました。ドクダミやツユクサ、オカトラノオが咲くともう梅雨です。ムラサキシキブ、クリ。そし

てリョウブが咲くと、夏本番も間近です。



ウツギの花
イラスト:聖香子の会

◆虫のすがたも

木々が緑を濃くするにつれ、虫たちも増え、野鳥たちも子育てに大忙しです。森は命であふれんばかりです。

4月頃、柔らかいコナラの新葉にオオミドリシジミの食痕を見つけ、付近を探してみると幼虫が見つかることがあります。オオミドリシジミを始め、金属光沢を持つものが多く、主に木の上で生活するシジミチョウ科の一群、ゼフィルスの季節がやってきます。日本では梅雨に入りますが、ヨーロッパでは西風の吹くさ

わやかな季節。この西風の神ゼフィロスからゼフィルスと呼ばれるようになったのだそうです。

日本には25種。狭山丘陵では、オオミドリシジミ、ミドリシジミ、アカシジミ、ウラナミアカシジミ、ミズイロオナガシジミが見られます。オオミドリシジミの雄は朝9時~10時頃までが、活動時間。他の雄を追って、きらきらと樹上へ絡み合うように舞い上がる姿を目にするチャンスです。

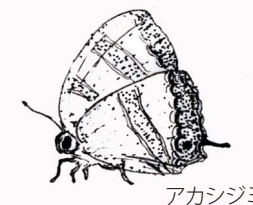
アカシジミは、夕暮れ時が活発に動く時間です。『黄昏飛翔』は翅のオレンジが夕日に映え美しいです。

どれも昼間は樹上の葉で休んでいることが多いので、驚かさなければほとんど飛ぶことはありません。

晴ればハルゼミの声も聞かれます。ヒグラシ、ニイニイゼミが梅雨明けを知らせるように鳴き始め、ミンミンゼミが鳴くともう夏です。

テリトリーを持つチョウ

ゼフィルスにはテリトリーを持ち侵入した他の個体を追飛するものが多いです。



アカシジミ

イラスト:牛込佐江子

◆夏鳥の季節です

ゴールデンウィーク頃までいたシロハラやツグミも北へと帰って行きました。いち早く南の国から帰ってきたツバメ。カッコウ、ホトトギスも4月下旬頃から帰って来始めています。

変な声をするなどと思ったら、今年生まれた幼鳥の声。キビ

タキなど移動途中の夏鳥の声も聞かれます。センターエリアでは繁殖はしていませんが、狭山丘陵の中では夏鳥たちが子育てをしています。

いろんな命が息づいている初夏の狭山丘陵です。